

宮城県 仙台育英学園 秀光中等教育学校



	氏名	校長・教員
監督名	小杉 勇太	○
コーチ	小野寺 翔	

学校長	加藤 雄彦
学校所在地	宮城県仙台市宮城野区宮城野二丁目 4-1
電話	022-256-4141

背番号	選手氏名	ふりがな	位置	学年	投	打
1	伊藤 樹	いとう たつき	投手	3	右	右
2	木村 航大	きむら こうだい	捕手	3	右	右
3	笹倉 世凧	ささくら せな	一塁手	3	左	左
4	八巻 真也	やまき まさや	二塁手	3	右	両
5	澤田 昂志郎	さわた こうしろう	三塁手	3	右	左
6	大藤 想太	だいとう そうた	遊撃手	2	右	右
7	守谷 帆久人	もりや ほくと	左翼手	3	右	左
⑧	島貴 丞	しまぬき じょう	中堅手	3	左	左
9	小原 捷平	こはら しょうへい	右翼手	3	右	右
10	古川 翼	ふるかわ つばさ	投手	2	左	左
11	大山 晏児	おおやま あんじ	外野手	3	左	左
12	溝上 勇人	みぞがみ はやと	捕手	2	右	右
13	遠藤 一輝	えんどう かずき	外野手	3	左	左
14	渡部 朝陽	わたなべ あさひ	内野手	3	右	右
15	田澤 優斗	たざわ ゆうと	内野手	2	右	右
16	黒田 恒大	くろだ こうだい	内野手	3	右	左
17	佐々木 碧生	ささき あおい	外野手	2	右	左
18	武者 勇樹	むしや ゆうき	外野手	3	右	右

第40回 全国中学校軟式野球大会 出場校紹介

東北ブロック		ふりがな		せんだいいくえいがくえんしゅうこうちゅうとうきょういくがっこう							
第1位		学校名	宮城県	仙台育英学園 秀光中等教育学校							
チームの戦力分析											
1 投手について											
伊藤、笹倉の140キロを超える左右の両エースを中心に投げていきたい。伊藤の安定感は地区大会、県大会、東北大会と上がってきた。笹倉も一球ですべての流れを変える一球を持っている。タイプの違うこの二人がダブルエースとして、全国の舞台で活躍してくれるだろう。また、2年生の古川も力をつけてきている。速球も130キロ台まで上げ安定感もついてきた。みんなが支え合って1試合を投げぬきたい。											
2 守備について											
カバーリング、バックアップにこだわり、みんなで確認の量を増やし、隙のない守備をしていきたい。投手に目が行きがちだが、野手陣の声掛けや、投手との一体感ある守備で守っていきたい。みんながみんなを助け合える守備だ。秀光野球の土台である、カバーリングとバックアップを献身的に行い続けようとしてきた。最後は守り勝てるように最高の準備をしていきたい。9人が力を合わせて0にこだわり守っていきたい。											
3 攻撃について											
超攻撃型野球を掲げずっとやってきた。走塁に目を向け、相手の隙を見逃さずダイヤモンドを駆け回りたい。1番から9番、初回から最終回まで布石を打ち続け、すべてが繋がっている攻撃をし続けたい。全員が1点に執着し、しどろしどろや爆発力をもって試合に臨みたい。攻撃の取りこぼしがないように勢いの中にも冷静さや丁寧さをもって、ひとつひとつの攻撃に取り組んでいきたい。											
4 チームの特徴											
このチームは「仲良くする・優しくする・お互いを認め合う」という3つの言葉を大切にしてきました。前監督の須江先生が残してくれた大切な財産にプラスして新監督の新しい風をチームに入れ新しい秀光をみんなで作っている。チームの中で、声を掛け合い、助け合う姿が多くみられる。野球だけではなく、一人の人間として大きくなるために、自分にとって不都合なことにも正面から向き合って取り組んできた。42人全員が、仲良く・優しく・お互いを認め合って戦っていききたい。											
5 全国中学校軟式野球大会出場回数			8回								
6 チーム成績(練習試合を含む)			151勝 8敗 3分								
7 本大会までの軌跡(大会ごとに対戦相手とスコアを記入してください)											
大会		仙台市		地区大会		都道府県大会		ブロック大会			
回戦	スコア	対戦校	回戦	スコア	対戦校	回戦	スコア	対戦校	回戦	スコア	対戦校
			準決勝	16-0	南小泉	1回戦	8-0	松島	1回戦	8-0	東根三
			決勝	8-0	岩切	2回戦	7-0	山下・荒浜	2回戦	8-0	中里
						準々決勝	5-0	女川	準決勝	5-0	久慈
						準決勝	6-0	寺岡	決勝	5-0	種市
						決勝	5-0	しらかし台			
8 学校紹介(開会式のアナウンスの参考にさせていただきます)											
「日本一からの招待」この言葉を大切に、日本一から招待されるチームはどんなチームなんだろうと日々考えながら追究してきました。野球に全力で向き合うために、野球以外の学校生活や私生活を見直し、一人の人間として成長するため、仲間と協力して毎日を過ごしてきました。この夏は、42人の部員と、監督、部長、コーチ、保護者の方々、秀光野球部全員で日本一から招待されたいと思います。辛い時期や苦しい時、また楽しい時や嬉しい時、すべての時間を過ごしてきた仲間たちと最高の夏にします。											
9 主将の抱負											
私たちは「仲良くする」「優しくする」「お互いを認め合う」ことを大切にしています。春の悔しい思いをした分、この夏は42人の仲間たちと最長で最高の夏にしたいです。日本一からの招待をスローガンとし、日本一から招待されるための日々を過ごしてきたので、秀光の名前に誇りを持ち、一戦一戦全力で戦っていきます。この仲間と野球ができるのも残り少ないです。終わったときに全員が前を向いて終われるように残り少ない日数を過ごしていきます。											